琉球大学病院麻酔科専門研修プログラム

（大都市圏あるいは大学のモデルプログラム）

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

責任基幹施設である琉球大学病院（本院），研修連携施設である南部医療センター・こども医療センター，那覇市立病院，沖縄赤十字病院，大浜第一病院，浦添総合病院，沖縄県立八重山病院，沖縄県立宮古病院，中頭病院，ハートライフ病院，友愛医療センター，北部地区医師会病院，沖縄県立中部病院，　沖縄県立宮古病院，中部徳洲会病院，南部徳洲会病院，小倉記念病院，弘前大学医学部附属病院，大阪医科薬科大学，愛媛大学，独協医科大学埼玉医療センター，聖隷浜松病院，久留米大学病院、久留米大学医療センター、大牟田市立病院、筑後市立病院，福岡市立こども病院において，本研修プログラムでは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

3. 専門研修プログラムの運営方針

琉球大学病院麻酔科専門研修プログラムは、沖縄県内唯一の麻酔科専門医プログラムです。沖縄県内の全ての認定病院がこのプログラムの関連病院となっており、それぞれの病院

の特徴的な手術症例に対する周術期管理を研修することができます。例えば、琉球大学病院では高度難度手術症例や重症患者の周術期管理、敗血症やARDSをはじめとする集中治療管理、慢性疼痛や癌性疼痛患者へのペインクリニックの研修ができ、外傷症例の多い沖縄県立中部病院、多くの小児麻酔を経験できる沖縄県立南部医療センター・こども医療センターで研修できます。これらの病院をローテーションし専門医としての経験と知識を習得できるプログラムです。

- 原則として研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち６ヶ月は，専門研修基幹施設で研修を行う．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する．
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが，小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B)，ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C)，集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など，専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する．
- 地域医療の維持のため，最低でも３ヶ月以上は地域医療支援病院である県立八重山病院、県立宮古病院、県立北部病院、北部地区医師会病院でで研修を行う。

研修実施計画例

	A（標準）	B（小児）	C(ペイン）	D（集中治療）
初年度前期	本院または所属する連携施設	本院または所属する連携施設	本院または所属する連携施設	本院または所属する連携施設
初年度後期	本院または所属する連携施設	本院または所属する連携施設	本院または所属する連携施設	本院または所属する連携施設
２年度前期	本院または所属する連携施設	南部こども医療センター	本院または所属する連携施設	本院，または所属する連携施設
２年度後期	本院または所属する連携施設	南部こども医療センター	本院（ペイン）	本院（集中治療）
３年度前期	または所属する連携施設	南部こども医療センター	本院（ペイン）	本院（集中治療）
３年度後期	南部こども医療センター	南部こども医療センター	本院（または連携施設）	本院（または連携施設）

４年度前期	本院（または連携施設）	本院（または連携施設）	南部こども医療センター	本院（または連携施設）
４年度後期	本院または連携施設（ペインまたは集中治療）	本院または連携施設（ペインまたは集中治療）	本院または連携施設	本院（または連携施設）

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
入室前	症例掲示	症例掲示	症例掲示	症例掲示	症例掲示		
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

琉球大学大学病院（以下，琉球大学大学本院）

研修実施責任者：垣花　学

専門研修指導医：垣花　学（麻酔）
中村清哉（麻酔，ペインクリニック、緩和）
渕上竜也（麻酔，集中治療）
大城匡勝（麻酔）
照屋孝二（麻酔，集中治療）
野口信弘（麻酔）
神里興太（麻酔，集中治療）
宜野座到（麻酔）
仲嶺洋介（麻酔）
渡邉洋平（麻酔）
桃原志穂（麻酔）
幾世橋美由紀（麻酔）
渡慶次さやか（麻酔，ペインクリニック）
小田浩央（麻酔，集中治療）
和泉俊輔（麻酔）
林　美鈴（麻酔，集中治療）
松尾敬介（麻酔）
新里勇人（麻酔，ペインクリニック）

山川翔太（麻酔）
我喜屋亮太（麻酔）
専門医：福地万寿美（麻酔）
兼島充基　（麻酔）
知念加奈子（麻酔）

麻酔科認定病院番号　49

特徴：先進的な幅広い症例が経験でき、指導体制も充実している。
集中治療、ペインクリニックを含む集学的な周術期管理を学べる。

② 専門研修連携施

小倉記念病院（以下、小倉記念病院）
研修実施責任者：角本　眞一
専門研修指導医：角本　眞一（麻酔、集中治療）
中島　研　（救急）
宮脇　宏　（麻酔、集中治療）
近藤　香　（麻酔、集中治療）
松田　憲昌（麻酔、集中治療）
林　淳也（麻酔、集中治療）
小林　芳枝（麻酔、集中治療）
生津　綾乃（麻酔、集中治療）
柳　　明男（麻酔、集中治療）
釜鳴　紗桐（麻酔、集中治療）
彼末　行世（麻酔、集中治療）

麻酔科認定病院番号　52

特徴：心臓大血管手術のみならず、TAVR、Mitral clipなどの低侵襲手術にも力を入れている。循環器疾患を合併した非心臓手術の麻酔症例も数多く経験できる．集中治療にも力を入れている。

弘前大学医学部附属病院　（以下、弘前大学医学部付属病院）
研修実施責任者：斎藤淳一
専門研修指導医：斎藤淳一（麻酔，集中治療，心臓，区域麻酔）
櫛方哲也（麻酔，集中治療）
木村太（麻酔，ペインクリニック，集中治療，緩和医療）
北山眞任（麻酔，区域麻酔）
橋場英二（麻酔，集中治療）
外崎充（麻酔）

中井希紫子（麻酔，区域麻酔）
工藤隆司（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）
工藤倫之（麻酔）
清川聖代（麻酔）
野口智子（麻酔，集中治療，心臓，区域麻酔）
紺野真緒（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）
川口純（麻酔，集中治療）
菅沼拓也(麻酔、集中治療)
竹川大貴（麻酔、集中治療）
大山翼(麻酔、集中治療)
堀実怜(麻酔、集中治療)
石山絵里奈（麻酔）
加藤広大（麻酔）
市川詩乃（麻酔）
齋藤くるみ（麻酔）

認定病院番号：46
特徴：ペインクリニック・緩和医療，集中治療，救急医療のローテーション可能

大阪医科薬科大学病院　（以下、大阪医科薬科大学病院）
研修実施責任者：日下裕介
専門研修指導医：南敏明（麻酔，ペインクリニック）
梅垣修（集中治療）
日下裕介（心臓血管麻酔，集中治療）
間嶋望（小児麻酔）
門野紀子（集中治療）
下山雄一郎（集中治療）
中野祥子（小児麻酔）
藤原　淳（心臓血管麻酔）
上野健史（小児麻酔）
長峯達成（心臓血管麻酔）
佐野博昭（ペインクリニック）
北埜学（小児麻酔）
藤澤貴信（心臓血管麻酔）
山崎紘幸（集中治療）
野田祐一（集中治療）
鳥井理那（ペインクリニック）
徳永友里（ペインクリニック）

牧澤佑樹（心臓血管麻酔）
三井寛明（心臓血管麻酔）
三島洋輝（ペインクリニック）
愛甲一樹（ペインクリニック）
金城碧（手術麻酔）
島津愛陽（手術麻酔）

麻酔科認定病院番号：19

特徴：2016 年 3 月より、新中央手術棟（手術室 20 室、集中治療室 16 床）が新設され、麻酔科医局は手術室・集中治療室に隣接しています。当院では、2025 年度、全手術件数 13,325 件、全身麻酔症例 7,669 件の実績があります。豊富な麻酔症例を経験でき専門医必要症例を全てバランスよく研修することが可能であり、さらに集中治療・ペインクリニックの研修も可能です。また、種々のセミナー（麻酔科学関連だけではなく、学会発表のための Power Point の使い方、統計など）の開催、専門医試験対策、学会発表・論文作成の指導、将来の志望に応じた人事面でのサポートなどを行っています。ペインクリニック外来は、1966 年、故兵頭正義教授が日本においては東京大学に次いで 2 番目に開設され、伝統があります。

聖隷浜松病院　（以下、聖隷浜松病院）

研修実施責任者：鳥羽好恵

専門研修指導医：鳥羽好恵（麻酔）
小倉冨美子（麻酔）
鈴木清由（麻酔）
奥井悠介（麻酔）
池上宏美（麻酔）
近藤聡子（麻酔）
日比野世光（麻酔）
林伶奈（麻酔）
林美帆（麻酔）
菊池高史（麻酔）
堤 啓彰（麻酔）

認定病院番号;233

特徴：心臓血管外科麻酔、周産期麻酔を含め、各分野において新生児から成人の様々な手術麻酔を経験可能。

心臓血管麻酔専門研修医認定施設、集中治療学会専門研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設。

久留米大学病院　（以下、久留米大学病院）

研修実施責任者：平木　照之

専門研修指導医：平木　照之（麻酔、緩和医療）
原　将人（麻酔、心臓麻酔）
中川　景子（麻酔、緩和医療）
平田　麻衣子（麻酔）
亀山　直光（麻酔）
横溝　美智子（麻酔）
太田　聡（麻酔）
服部　美咲（麻酔）
藤田　太輔（麻酔、心臓麻酔）
木本　義敬（麻酔）
西原　千晶（麻酔）
川上　真代（麻酔）

認定病院番号：41

特徴：福岡県南部の中核病院。新生児、開心術、高難度手術など幅広く手術麻酔を行っています。手術症例数が豊富であり専門医として必要な手技を数多く経験することができます。

大牟田市立病院　（以下、大牟田市立病院）

研修実施責任者：上瀧　正三郎

専門研修指導医：上瀧　正三郎（麻酔）
伊藤　貴彦（麻酔、救急医療）

認定病院番号：386

特徴：地域医療支援病院、がん診療拠点病院、災害拠点病院。小児麻酔や産科麻酔、脳神経外科や胸部外科の症例が豊富で緊急手術も多い。災害拠点病院でもあり、救急医療にも力を入れている。

筑後市立病院　（以下、　筑後市立病院）

研修実施責任者：江島　美紗

専門研修指導医：江島　美紗（麻酔）
合原　由衣（麻酔）

認定病院番号：900

特徴：災害拠点病院。鏡視下手術の麻酔や手術室外での麻酔を経験できる。

久留米大学医療センター　（以下、久留米大学医療センター）

研修実施責任者：西尾　由美子

専門研修指導医：西尾　由美子（麻酔）

認定病院番号：1451

特徴：クリニカルパスを含めた、手術麻酔のマネジメントを経験できる。また整形外科疾患

におけるエコーガイド下末梢神経ブロックを集中的に経験することができる。

獨協医科大学埼玉医療センター　（以下、獨協医科大埼玉）
研修実施責任者：奥田泰久（麻酔、ペインクリニック）
専門研修指導医：奥田泰久（麻酔、ペインクリニック）
浅井 隆　（麻酔，医学統計、気道確保）
新井丈郎（麻酔，心臓麻酔）
齋藤朋之（麻酔，気道確保）
齊間俊介（麻酔，神経ブロック）
橋本雄一（麻酔）
鈴木博明（麻酔，心臓麻酔，小児麻酔）
遠藤聖子（麻酔，小児麻酔，心臓麻酔）
高橋 慧　（麻酔，心臓麻酔）
菊地 梓　（麻酔）
立川真人　（麻酔，ペインクリニック）
宮﨑真理恵（麻酔）
鶴町直威　（麻酔,ペインクリニック）
卜部一弘　（麻酔,ペインクリニック）
藤城明日香（麻酔）
永山英寿　（麻酔）
鹿島田瞬也（麻酔）
増井克秀　（麻酔）
小川理恵　（麻酔）
坂口玲奈　（麻酔）
認定病院番号：339
特徴：開心術,TAVI やステントグラフトなどのハイブリット手術,一般的な小児外科手術,
帝王切開術,ダヴィンチ・ヒノトリ手術,Awake craniotomy,腎移植術など，幅広く症例を経験出来る.

愛媛大学医学部附属病院（以下，愛媛大学病院）
研修実施責任者：西原　佑
専門研修指導医：西原　佑（麻酔，集中治療）
高崎康史（麻酔，集中治療）
藤井知美（緩和ケア，ペインクリニック）
藤井園子（小児心臓外科麻酔）
北村咲子（麻酔）
藤岡志帆（麻酔，緩和ケア）
渡邊愛沙（麻酔，ペインクリニック）

阿部尚紀（麻酔，集中治療）
南立秀幸（麻酔，集中治療）
関谷慶介（麻酔，集中治療）
西川裕喜（麻酔，ペインクリニック）
小西　周（成人心臓外科麻酔）
廣松恵美子（麻酔，区域麻酔）
大塚悠子（麻酔）
谷島明秋（成人心臓外科麻酔）
常盤大樹（麻酔）
中田行洋（麻酔，集中治療）
山本和一（麻酔，集中治療）
堀田三希子（麻酔，ペインクリニック）
橋本由莉恵（麻酔）

認定病院番号：132　研修委員会認定病院取得：2011年
特徴：成人心臓血管外科，小児心臓血管外科，小児外科，呼吸器外科，産婦人科，脳神経外科などの症例経験数を求められる手術の症例数は豊富にある．また，生体・脳死肝移植術，VAD植え込み手術などの多彩な症例を経験できる．また，2024年度からは心臓移植も始まっており，様々な高難度手術を経験できる．サブスペシャリティ領域における育成も進めており，ペインクリニック，集中治療の研修体制も充実している．

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター（以下，南部医療センター）
研修実施責任者：川端徹也
専門研修指導医：川端徹也（麻酔、小児麻酔）
比嘉久栄（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）
杉浦(兼城)真帆（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）
伊敷聖子（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）
野中信一郎（麻酔、小児麻酔、区域麻酔、心臓血管麻酔）
北原武尊（麻酔、小児麻酔）
松田龍太（麻酔、小児麻酔、区域麻酔）

麻酔科認定病院番号：409　1986年 研修委員会認定病院取得
特徴：地域医療支援病院、小児麻酔専門施設、心臓血管麻酔認定施設
新生児から高齢者まで、麻酔関連の専門資格取得に必要な経験症例を全て網羅

北部地区医師会病院　（以下，北部地区医師会病院）
研修実施責任者：中島昌暢
専門研修指導医：中島昌暢（麻酔）
小野澤裕史（麻酔）

認定病院番号 ：1601
特徴：当院は、2013 年に　研修委員会認定病院取得し、消化器外科と整形外科を中心に心臓血管外科や呼吸器外科の麻酔管理を行っております。消化器外科では、食道から肛門までの消化管、肝胆膵の外科手術、胆嚢炎などの緊急手術の麻酔、心臓血管外科では週に１例程度ですが、弁膜症や冠動脈疾患の手術の麻酔管理を行っております。
更に離島地域を含めた、高齢者が多く様々な合併症を有していることも多く、できるだけ早く手術を行い他科とも協力しながら地域医療支援病院として、色々と勉強になることも多いと思います。

沖縄県立中部病院　（以下、中部病院）
研修実施責任者：西　啓亨
専門研修指導医：西　啓亨
久保田　陽秋
金城　健大
石原　昌貴
嘉手川　康人
麻酔科認定病院番号　241
特徴：当院では、救命救急センター、総合周産期母子医療センターなどを有することから緊急手術症例、特に外傷症例や産科緊急症例が多い。

社会医療法人敬愛会　中頭（なかがみ）病院　（以下、中頭病院）
研修実施責任者：高橋和成
専門研修指導医：高橋和成（麻酔）
上川務恵（麻酔）
花城亜子（麻酔）
兼村大介（麻酔）
平田友里（麻酔）
専門医： 清水友理（麻酔）
麻酔科認定病院番号　1007
特徴： 当院は沖縄県中部にある、病床数355床の急性期総合病院です。診療科は一般外科、呼吸器外科、整形外科、脳外科、心臓外科、産婦人科、形成外科、耳鼻科などを有します。経験できる症例は多岐にわたり、後期研修に必要な症例は全て網羅することができます。救急・集中治療部門も充実しているので、研修中にローテーションすることも可能です。

社会医療法人かりゆし会　ハートライフ病院　（以下，ハートライフ病院）
研修実施責任者：島袋　泰

専門研修指導医：島袋　泰　（麻酔）
久場　良也（麻酔，集中治療）
嘉手苅　由梨（麻酔）
専門医：川上(太田)沙也加（麻酔）
屋良(平良)志子（麻酔）
認定病院番号：773
特徴： 地域医療支援病院　帝王切開術及び高齢者への麻酔症例が多い

浦添総合病院　（以下、浦添総合病院）
研修実施責任者：藤岡　照久
専門研修指導医：藤岡　照久
谷川　真也
佐久間　隆弘
松野　敬
麻酔科認定病院番号　751
特徴： 当院はドクターカーやドクターヘリを運用し救命救急センターを併設する三次医療機関です。専攻医の経験必須症例のうち、心臓血管外科の麻酔、胸部外科手術の麻酔（分離肺換気)、脳神経外科手術の麻酔が経験でき、その他にも外科、整形外科、脊椎・脊髄外科、食道外科、乳腺外科、耳鼻科、形成外科、口腔外科、腎・泌尿器外科の麻酔管理が習得できます。
市中病院ならではの一般的な手術の麻酔や交通外傷を含む重症患者の麻酔管理まで幅広く経験できます。

沖縄医療生活協同組合　沖縄協同病院病院（以下，沖縄協同病院）
研修実施責任者：座波政美
専門研修指導医：座波政美（麻酔）
外間梨香（麻酔）
専門医：川合健志郎（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1697号
特徴： 急性期医療に力を入れているため様々な手術の麻酔を経験することができる。

施設名：大浜第一病院　（以下、大浜第一病院）
研修実施責任者：大見謝　克夫
専門研修指導医：大見謝　克夫
麻酔科認定病院番号：1204
特徴： 外科・整形外科・泌尿器科・脳神経外科・大腸肛門外科・婦人科・形成外科・眼

科・歯科口腔外科・眼形成眼窩外科・循環器内科の手術に対応しております。特に肥満減量手術・婦人科腹腔鏡下手術・肛門外科手術・肩関節鏡下手術・眼形成眼窩手術・ロボット手術（外科・婦人科・泌尿器科）は相当数の実績を得ています。

那覇市立病院　（以下、那覇市立病院）
研修実施責任者：宮田裕史
専門研修指導医：宮田裕史
福元千尋
小渡有一郎
古賀勇太
新垣裕太
麻酔科認定病院番号　：504
特徴：新生児から高齢者まですべての患者の症例を経験できる。
急性期病院であるため、緊急手術も多く、緊急時の対応なども経験できる。
専門医取得のための経験必要症例は、取得可能である。

友愛医療センター　（以下、友愛医療センター）
研修実施責任者：新里泰一
専門研修指導医：宜保さとこ（麻酔）
赤嶺智教（麻酔）
新里泰一(麻酔)
松本智子（麻酔）
山腰美腰香(麻酔)
和田理沙子(麻酔)
麻酔科認定病院番号　949
特徴：県内有数の症例数を誇り、小児外科領域以外の症例であれば種類も豊富である。日中は忙しいですが、休みは長短自由に取れるなど、即戦力を身に付けたい若手麻酔科医、育児中の麻酔科医、自分のペースで仕事にかかわりたい麻酔科医などあらゆるニーズを満たす寛容さがあります。

沖縄赤十字病院　（以下、沖縄赤十字病院）
研修実施責任者：呉屋　太章
専門研修指導医：呉屋　太章（麻酔）
波平　紗織（麻酔）
認定病院番号：545
特徴：肩関節手術・人工股関節置換術の症例数が比較的多い
帝王切開術が比較的多い

無痛分娩を行っている
脳外科はてんかん手術がある

医療法人　徳洲会　南部徳洲会病院　（以下、南部徳洲会病院）
研修実施責任者：上原　英生
専門研修指導医：上原　英生
麻酔科認定病院番号　1740
特徴：泌尿器科ロボット（hinotori）、整形外科手術ロボット支援システム（Mako System Smart Robotics）を導入し高度先端手術も実施していく。

沖縄県立宮古病院　（以下、宮古病院）
研修実施責任者：小池　奈央
専門研修指導医：小池　奈央
専門医：富田　寛生
麻酔科認定病院番号　799
特徴：心臓外科などの大きな手術はないですが、一般外科、整形外科、産婦人科などの多い疾患を中心に、離島とはいえ比較的広範囲に経験できると思います。宮古島では一番大きな病院なので、離島ならではの制限もあるなかで、他科とも協力しながら各々の状況にいかに対応するかという点で、自分で考え行動するということはとても勉強になると思います。

沖縄県立八重山病院　（以下、八重山病院）
研修実施責任者：喜瀬　涼（麻酔）
専門研修指導医：喜瀬　涼（麻酔）
専門医：上地　仰（麻酔）
麻酔科認定病院番号:754
特徴：心臓血管外科以外の一般症例（緊急含め）を幅広く経験することが出来る。島内で完結できる手術はできる限り行うため、様々な背景をもつ患者の麻酔を行うことが多い。
手術室外での任務（救急症例の挿管や鎮静、全身管理、小児の検査時鎮静など）も多岐にわたり経験できる。

医療法人 徳洲会　中部徳洲会病院　（以下、中部徳洲会）
研究実施責任者：古賀　寛教（集中治療, 麻酔）
専門研修指導医：古賀寛教（集中治療, 麻酔）
伊波　寛（集中治療）
野村岳志（集中治療・麻酔）
専門医：髙木龍希（麻酔）

認定番号：713
特徴：沖縄県中部ライカムにある急性期中核病院である。屋上ヘリポートをもつ災害拠点病院の役割とともに、最先端医療およびがん診療にも力を入れており、手術支援ロボット 2 台を稼働している。麻酔では、神経ブロック、集中治療では POCUS の研修が可能である。救急医療、離島医療支援の経験も可能である。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2026 年 9 月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，琉球大学病院麻酔科専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

琉球大学病院　麻酔科　和泉俊輔
〒901-2222 沖縄県宜野湾市喜友名1076番地
TEL 098-894-1031 （内線：1473）
E-mail izumi_flgz@cs.u-ryukyu.ac.jp
Website http://www.semom.med.u-ryukyu.ac.jp/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

1）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
4）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修 4 年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う通算６ヶ月以内の休止は研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての〇〇病院，〇〇病院，〇〇病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．